

高橋学教授 略歴 主要著書・論文等目録

略 歴

学 歴

- 1954年6月 愛知県東春日井郡篠岡村（現小牧市）生まれ
1978年3月 立命館大学文学部地理学科地理学専攻 卒業
1980年3月 立命館大学大学院文学研究科修士課程 修了
1983年3月 立命館大学大学院文学研究科博士課程後期課程 単位取得退学
2004年3月 博士（文学 立命館大学）

職 歴

- 1991年4月 立命館大学文学部 助教授（～1994年3月）
1994年4月 立命館大学理工学部建設環境系助教授（～1996年3月）
1996年4月 立命館大学理工学部建設環境系教授（～1997年3月）
1997年4月 立命館大学文学部 教授

兼任・学外研究

- 立命館大学歴史都市防災研究所教授（2003年～：2012年まではセンター）
立命館大学環太平洋文明研究センター長（2013年～：センター長は2019年～）
ロンドン大学（UCL）考古学研究所客員教授（1999～2000年）
高麗大学考古環境研究所客員教授（2006年）
チリ環境省客員研究員（2013～2014年）

所属学会

日本地理学会、日本第四紀学会、人文地理学会、歴史地理学会、東北地理学会、日本リモートセンシング学会、日本写真測量学会、条里制・古代都市学会、立命館地理学会

非常勤講師歴

大阪芸術大学、立命館大学、関西学院大学、大阪商業大学、敦賀女子短期大学、花園大学、京都大学防災研究所巨大災害センター、京都橘女子大学、京都教育大学、京都大学文学部、皇學館大學、国学院大学

主要研究業績

1. 著書・編著書

- 単著 (2003) 『平野の環境考古学』、古今書院。
- 共著 (2006) 『古地形および遺跡分布』、高麗大学校考古環境研究所 (李 弘鍾と共著、原文ハンデル)。
- 共著 (2008) 『韓半島中西部地域の地形環境分析』、スキョン文化社 (李 弘鍾と共著、原文ハンデル)。
- 共編著 (2017) 『自然と人間の関係の地理学』 (安田喜憲と共編)、古今書院。

2. 論文

- 単著 (1979) 「先史・古代における雲出川下流域平野の地形環境」、人文地理、31 (2)、54-68。
- 単著 (1980) 「臨海平野における発達史的地形分類について」、立命館文学、8・9、163-165。
- 単著 (1982) 「三原平野の地形発達史」、神戸新聞社編『淡路人を考える - 古代の水田調査から -』、神戸新聞社、8。
- 単著 (1982) 「淡路島三原平野の地形構造」、東北地理、34 (3)、138-150。
- 共著 (1983) 「洪水で埋もれた五つの水田址」 (松下 勝と共著)、地理、28 (10)、60-66。
- 単著 (1984) 「新庄町の地形」、新庄町史編纂委員会編『改訂新庄町史』、新庄町史編纂委員会、483-502。
- 単著 (1986) 「微地形・超微地形分析からみた古代の水田開発」、条里制研究、2、131-152。
- 共著 (1987) 「災害年表・相生市水害図・植生図・土壌図・地誌」 (平井松午・五十嵐 勉と共著)、相生市史編纂委員会編『相生市史 6』、2-121、128-145、233-245、付図7。
- 共著 (1988) 「矢野川流域の灌漑水利と開発」 (平井松午・五十嵐 勉と共著)、徳島大学教養部紀要、23、71-95。
- 単著 (1988) 「平野の形成と水田開発」、上山英昭編『話題源地理』、とうほう、239。
- 単著 (1988) 「空からみた泉佐野」、泉佐野市史研究、4、1-8。
- 単著 (1988) 「災害」、相生市史編纂委員会編『相生市史 3』、相生市史編纂委員会、663-678。
- 単著 (1988) 「歴史時代の地形環境」、相生市史編纂委員会編『相生市史 3』、相生市史編纂委員会、621-647。
- 単著 (1989) 「埋没水田の地形環境分析」、第四紀研究、27 (4)、253-272。
- 単著 (1990) 「発掘調査のための地形環境分析」、山梨文化財研究所所報、9、6-7。
- 単著 (1990) 「播磨灘沿岸平野の地形環境と土地開発」、今里幾次先生古稀記念論文集刊行会編『播磨考古学論叢』、今里幾次先生古稀記念論文集刊行会、1-14。
- 単著 (1990) 「地形環境分析からみた条里遺構年代決定の問題点」、条里制研究、6、5-22。
- 単著 (1991) 「土地を選ぶ水田」、季刊考古学、37、65-69。
- 単著 (1991) 「河内平野の形成と水田開発」、大阪文化財センター編『原始・古代のコメ作り』、大阪文化財センター、10-13。
- 単著 (1992) 「高松平野の地形環境 - 弘福寺領山田郡田図比定地付近の微地形環境を中心に -」、高松市教育委員会編『讃岐国弘福寺領の調査』、高松市教育委員会、149-192。
- 単著 (1992) 「災い転じて福となす」、大阪文化財センター編『図録 農耕の技術とまつり』、大阪

文化財センター、30。

- 单著 (1993) 「空中写真から埋没データを読む」、立命館地理学、4、1-9。
- 单著 (1993) 「古代末における地形環境の変化と土地利用」、歴史地理学、165、48-49。
- 单著 (1993) 「生活舞台の自然環境を解明する－災害と開発の考古学－」、地理、38 (1)、22-28。
- 单著 (1993) GEO – ENVIRONMENT, DISASTERS AND LAND DEVELOPMENT IN RECENT ALLUVIAL PLAINS AFTER FIXATION OF RICE CULTIVATION – PARTICULARLY IN THE SETO INLAND SEA COASTAL AREA OF WESTERN JAPAN –、*RITSUMEIKAN BUNGA KU* 527、1-9。
- 单著 (1993) 「地形環境分析からみた弥生時代の環濠集落－「もの」の科学から「地域」の科学へ－」、山田安彦教授退官記念論文集記念会編『転換期に立つ地域の科学』、古今書院、46-54。
- 单著 (1994) 「古代末以降における地形環境の変貌と土地開発」、日本史研究、380、33-49。
- 单著 (1994) 「古代末以降における臨海平野の地形環境と土地開発－河内平野の島島開発を中心に－」、歴史地理学、36 (1)、1-15。
- 单著 (1994) 「琵琶湖沿岸平野の地形環境分析」、琵琶湖歴史環境研究会編『琵琶湖の歴史環境－その変動と生活－』、琵琶湖博物館開設準備室、71-85。
- 单著 (1994) 「大メンデレス川および小メンデレス川下流域平野の地形環境」、立命館地理学、6、73-84。
- 单著 (1995) 「中世絵図の地形環境分析」、網野善彦・石井 進ほか編『中世資料論の現在と課題』、名著出版、79-101。
- 单著 (1995) 「古環境からみた阪神大震災」、地理、40 (4)、114-117。
- 单著 (1995) 「古環境と災害」、兵庫考古、1、15-25。
- 单著 (1995) 「ラグーンを臨む台地での生活」、梅原 猛・安田喜憲編『縄文文明の発見』、PHP 研究所、98-109。
- 单著 (1995) 「臨海平野における地形環境の変貌と土地開発」、日下雅義編『古代の環境と考古学』、古今書院、158-183。
- 单著 (1995) 「吉井町の自然環境」、吉井町編纂委員会編『吉井町史 通史編』、吉井町、1-43。
- 单著 (1995) 「洪水と水害のはざままで」、大阪府文化財調査研究センター編『考古学から災害復興を考える』、大阪府文化財調査研究センター、4-9。
- 单著 (1995) 「地形環境の変貌と土地利用」、新人物往来社編『日本古代史「謎」の最前線』、新人物往来社、34-41。
- 单著 (1995) 「地形環境分析からみた池上曾根遺跡」、池上曾根遺跡整備委員会編『弥生王国の宮室』、池上曾根遺跡整備委員会。
- 单著 (1995) 「古環境からみた阪神大震災」、地理、40 (4)、114-117。
- 单著 (1995) 「遺跡の端は波に洗われていた」、歴史街道、4、95-134。
- 单著 (1995) 「地震と縄文時代の海との深い関係」、歴史街道、5、124-128。
- 共著 (1995) 「阪神・淡路大震災を教訓として、これからの都市のあり方はいかにあるべきかを考える」(伊藤 滋・池田武邦と共同)、*JIA NEWS*1996『伊藤 滋・池田武邦と鼎談』、新建築家協会、1・2、8-34。
- 单著 (1995) 「古代の地形環境と土地開発・土地利用」、帝京大学山梨文化財研究所研究報告、7、

21-32。

- 单著 (1995) 「震災と復興の環境考古学」、兵庫県史編集専門委員会編『兵庫県の歴史 32』、73-81。
- 单著 (1995) 「埋積浅谷」、安田喜憲・林 敏雄編『講座文明と環境 文明の危機』、朝倉書店、274-277。
- 单著 (1995) 「平野の微地形変化と開発」、吉野正敏・安田喜憲編『講座文明と環境 歴史と気候』、朝倉書店、214-231。
- 单著 (1995) 「過去の環境と阪神・淡路大震災」、建築防災、220、9-14。
- 单著 (1996) 「土地の履歴と阪神・淡路大震災」、地理学評論、69A (7)、504-517。
- 单著 (1996) 「土地の履歴からみた阪神大震災」、新人物往来社編『日本古代史「神話・伝説」の最前線』、新人物往来社、370-377。
- 单著 (1996) 「地盤条件から見た阪神・淡路大震災の被害状況」、立命館大学工学部『阪神・淡路大震災インフラストラクチャー・ライフライン部会研究報告』、立命館大学阪神淡路大震災復興プロジェクト。
- 单著 (1996) 「阪神・淡路大震災の被害状況と地盤条件」、建築知識編『地震に強い木造住宅の設計施工マニュアル』、建築知識、83-85。
- 单著 (1996) 「土地の履歴を無視した宅地開発が災いに」、日経アーキテクチャー、6 (3)、106-109。
- 单著 (1996) 「古代荘園図と自然環境」、石上英一・金田章裕・栄原永遠男編『日本古代荘園図』、東京大学出版会、115-128。
- 单著 (1997) 「稲作の発展をささえた舞台－地形環境と土地利用」、季刊考古学、56、44-48。
- 单著 (1997) 「環境考古学からみた長江文明」、歴史街道、5、60-67。
- 单著 (1997) 「淡路国分寺跡」、条里制研究会編『空から見た古代遺跡と条里』、大明堂、110-111。
- 单著 (1997) 「微地形と埋没微地形」、桑原公德先生古稀記念事業会編『歴史地理学と地籍図』、ナカニシヤ出版、189-200。
- 单著 (1997) 「岩出町の地形環境と災害」、和歌山県那賀郡岩出町編『岩出町防災計画』、和歌山県那賀郡岩出町、1-20、付図1。
- 单著 (1997) 「地形環境からみた巨大古墳」、新人物往来社編『日本古代史「王権」の最前線』、新人物往来社、126-133。
- 单著 (1997) 「竜馬古城宝墩遺跡の画像から過去の地形を探る」、ニュートン、1997 (5)、84-85。
- 单著 (1998) 「揖保川下流域平野の地形環境と土地開発－法隆寺領鶴荘絵図に記された「弘山押領」の自然的背景－」、立命館文学 553、200-218。
- 单著 (1998) Geo-environmental analysis in the recent alluvial plains of the large menderes and the small menderes, *Japan Review*, 8、209-219.
- 单著 (1998) 「長江文明をさぐる」、新人物往来社編『日本古代史「争乱」の最前線』、新人物往来社、382-387。
- 单著 (1998) 「龍馬古城宝墩遺跡の環境考古学 I」、『龍馬古城宝墩遺跡』、四川省文物局・成都市文物局・国際日本文化研究センター。
- 单著 (1998) 「環境考古学からみた震災被害予測」、行動計量学会論文集、36、297-298。
- 单著 (1998) 「1995年兵庫県南部地震被害の地形環境分析」、地理学論集、51、127-134。
- 单著 (1999) 「河原の出現」、『日本古代史「王城と都市」の最前線』、新人物往来社、324-331。

- 単著 (1999) 「環境史・開発史・災害史」、富山県埋蔵文化財センター編『埋文とやま』、富山県埋蔵文化財センター、75 (5)、1-2。
- 単著 (1999) 「縄文人が暮らした日本の自然環境」、平尾良光・山岸良治編『古墳・貝塚・鉄器を探る』、国土社、22-23。
- 単著 (1999) 「海面変動と海進・海退」、朝尾直弘ほか編『堺の歴史－都市自治の源流』、角川書店、36-38。
- 単著 (1999) 「土地利用変化による災害の拡大化 -1998 年長江大水害-」、土木学会誌、84 (9)、6-7。
- 単著 (1999) 「国際文化公園都市周辺の地理環境調査」、大阪府文化財調査研究センター編『彩都 (国際文化公園都市) 周辺地域の歴史文化総合調査』、499-506、巻頭図版 4。
- 単著 (2000) 「1998 年長江大水害の地形環境分析」、岐阜地理、43、36-40。
- 共著 (2000) 「環境考古学からみた災害と土地開発」(外山秀一と共著)、関西エネルギーリサイクル科学研究財団、CD 版。
- 共著 (2001) 「環境考古学からみた都市計画と災害」(外山秀一・河角龍典と共著)、大林都市研究振興財団、CD 版。
- 単著 (2001) 「長船町の自然環境」、長船町史編纂委員会編『長船町史 通史編』、3-87。
- 単著 (2001) 「古代後半～中世初頭における河原の出現」、吉越昭久編著『人間活動と環境変化』、古今書院、1-17。
- 単著 (2001) 「立体視技術の必要性と方法」、地理、46 (7)、15-20。
- 単著 (2002) 「環境変動と土地開発－条里型土地割施工以前と施工後－」、条里制・古代都市研究、18、1-16。
- 単著 (2002) 「遺跡の発掘と災害－神戸と山科－」、仁木 宏編著『山科の歴史』、法蔵館、5-35。
- 単著 (2002) 「環境考古学からみた六つの川」、新湊川流域変遷史編集委員会編『歴史が語る湊川－新湊川流域変遷史』、神戸新聞総合出版センター、301-307。
- 単著 (2002) 「環境考古学・災害」、浮田典良編『最新地理学用語辞典』、大明堂、110-111。
- 単著 (2003) 「地形環境分析」、安田喜憲編著『環境考古学ハンドブック』、朝倉書店、154-164。
- 単著 (2003) 「鴨川の河原と歓楽街」、村井邦彦編著『平安京の光と闇』、作品社、207-210。
- 単著 (2003) 「環境考古学序説－地形環境分析と考古学における「地層」認識の問題点－」、立命館大学考古学論集Ⅲ (2)、1105-1125。
- 単著 (2004) 「列島をめぐる地理的環境」、井上 勲編『日本の時代史 29 日本史の環境』、吉川弘文館、55-79。
- 単著 (2004) 「都市環境史序説」、日下雅義編『地形環境と歴史景観』、古今書院、1-13。
- 単著 (2004) 「鵜荘絵図「弘山押領」の地形環境分析」、岩本次郎ほか編『播磨国鵜荘現況調査報告総集編』、太子町教育委員会、209-226。
- 単著 (2004) 「環境史からみた中世の開発と災害Ⅱ」、京都民科歴史部会、259、3-8。
- 単著 (2005) 「近世以前の地形環境の変化」、中村和郎ほか編『日本の地誌 1 日本の自然総論』、朝倉書店、275-307。
- 単著 (2005) 「弥生時代およびそれ以降の微地形変化と土地利用－環境考古学の視点から－」、国際学術会議『景観の考古学』、高麗大学校古環境研究所、91-114。
- 単著 (2005) 「埋蔵文化財情報を用いた災害予測」、国連防災世界会議パブリックフォーラム『文

- 化遺産を災害から守るために』、67-75。
- 単著 (2005) 「災害リスクマネジメントのための環境考古学」、立命館文学、593、187-200。
- 単著 (2005) 「瀬戸内海－沿岸低地のなりたちと地形環境－」、池田 碩編著『地形と人間』、古今書院、67-86。
- 単著 (2005) 「中国－長江流域の地形環境と土地開発・災害－」、池田 碩編著『地形と人間』、古今書院、161-173。
- 単著 (2006) 「地震」、金田章裕・石川義孝編『日本地誌 8 近畿』、朝倉書店、110-114。
- 単著 (2006) 「長江中流域・禮陽平野の微地形環境と土地開発」、湖南省文物考古研究所・国際日本文化研究中心編『禮县城頭山』、中国語版 科学出版社、英語版、Lustre Press and Roli Books、18-31。
- 単著 (2007) 「原始・古代の環境変化・土地開発・災害」、山口県史編纂委員会編『山口県史 原始・古代編』、60-130。
- 単著 (2007) 「画像でみる山口県のすがた」、山口県史編纂委員会編『山口県史 原始・古代編』、DVD 版 1。
- 単著 (2009) 「平野の形成と遺跡群」、小杉 康ほか『大地と森の中で－縄文時代の古生態系－』、同成社、35-46。
- 単著 (2010) 「京都の原風景と平安京」、立命館大学文学部京都文化講座委員会編『京都の風土と景観』、白川書院、4-27。
- 単著 (2010) 「文化財レスキューにおけるトリアージ」、土岐憲三編『文化遺産と芸術作品を自然災害から守るための学理の構築』、立命館大学、169-175。
- 単著 (2010) 「京都盆地における老朽化住宅と地形環境との関係」、土岐憲三編『歴史都市を守る文化遺産防災学』、立命館大学、74-77。
- 単著 (2010) 「環境史からみた中世の開始と終焉」、水島 司編『環境と歴史学』、勉誠出版、163-172。
- 単著 (2010) *Flooding of the Kamogawa River after Ancient Times, Introductory Volume to Cultural Heritage Disaster Mitigation Studies*, Ritsumeikan University、99-105。
- 単著 (2010) 「韓半島南部・網谷里遺跡の地形環境の変化と土地開発－韓国戦争とセマウル運動－」(原文ハンゲル)、ウリ文化財研究所編『網谷里遺跡』、ウリ文化財研究所、162-168。
- 単著 (2011) 「土地の履歴を知ることによって震災の被害は確実に減る」、都市問題、102、28-40。
- 単著 (2011) 「震災を知る」、岐阜新聞社報道本部東日本大震災取材班編『東日本大震災ぎふ支援の記録』、岐阜新聞社、176-191。
- 共著 (2012) 「残されし災害の記録に学ぶ」(佐野健治・西 和夫と共同)、建築雑誌、127、8-12。
- 単著 (2012) 「環境考古学からみた東北日本太平洋沖地震の津波災害」、土木史学会誌、32、9-11。
- 単著 (2012) 「近世における京都鴨川・桂川の洪水」、吉越昭久・片平博文編著『京都の歴史災害』、思文閣、33-45。
- 単著 (2013) *Damages Caused by Tsunami during Great Tohoku Earthquake – Perspective of Environmental History –*, International Geographic Congress. Proceedings Internet version.
- 単著 (2014) 「環境史からみた東北地方太平洋沖地震の津波被害」、吉越昭久編著『災害の地理学』、

文理閣、45-66。

单著 (2015) 「高雄のモミジと醍醐のサクラー環境史からみた京都の観光ー」、立命館大学地理学教室編『観光の地理学』、文理閣、150-167。

共著 (2016) 「シンポジウム 災害考古学の可能性を探る」(森永速男・山下史朗・甲斐昭光・多賀茂治と共著)、兵庫県立博物館紀要、9、18-33。

单著 (2016) 「人はどこで死ぬかー災害発生メカニズムからー」、兵庫県立博物館紀要、9、1-17。

单著 (2016) 「環境史からみた災害」、都市問題、107、巻頭言。

单著 (2016) 「環境史からみた信長の時代 Iー桶狭間の戦いー」、立命館文学、645、164-189。

单著 (2016) Earthquake, Tsunami and Flood Disasters in Prehistoric and Historic Eras, World Archeology Conference Proceedings. 8、1-8。

单著 (2017) 「都市型震災と村おこし型震災の発生メカニズム」、立命館文学、649、162-177。

单著 (2017) 「巨大地震・大地震は突然起きない」、環太平洋文明研究、1、1-10。

单著 (2017) 「環太平洋地域における地震・火山噴火とその災害」、立命館文学、650、240-262。

单著 (2017) 「環太平洋の災害と文明」、安田喜憲・高橋 学編『自然と人間の関係の地理学』、古今書院、159-185。

单著 (2018) 「環境史からみた信長の時代 IIー小氷期と豊年祭ー」、立命館文学、656、75-96。

单著 (2018) 「内陸直下型地震・火山噴火・プレート型地震発生モデル」、環太平洋文明研究、2、1-16。

单著 (2019) 「環境史・土地開発史・災害史からみた災害発生メカニズム」、環太平洋文明研究、3、1-22。

单著 (2019) 「遺跡立地分析のための地形分類図の限界」、考古学ジャーナル、723、巻頭言。

单著 (2019) 「環境史からみた島嶼の災害リスクマネジメント」、月刊地球、482、海洋出版、644-651。

3. その他

共著 (1983) 『新庄町史地理編資料』(野崎清隆・野間晴雄と共同)、新庄町史編纂委員会編『改訂新庄町史』、新庄町史編纂委員会、全 61。

单著 (1985) 「人文地理年間展望 1984 年先史時代」、人文地理、37 (3)、66-67。

共著 (1988) 『水田遺構集成』(高谷好一・佐原 真と共同)、農耕文化研究振興会、全 251。

单著 (1991) 「人文地理年間展望 1990 年先史時代」、人文地理、43 (3)、52-54。

单著 (1997) 「書評：安田喜憲著 森と文明の物語ー環境考古学は語る」、立命館大学学園通信、109、20。

共著 (1997) 『大垣市遺跡分布図解説編』(日下雅義・青木哲哉・足利健亮・伊藤安男と共同) 大垣市教育委員会文化振興課編、全 224。

单著 (1998) 「鴨川流域における地形環境の変遷と開発」、吉越昭久編著『河川景観とイメージの形成に関する歴史地理学的研究』、2-14。

单著 (1998) 「災害ー自然と人間のはざまでー」、立命館大学土曜講座だより、261、1-2。

单著 (2004) 「書評：松井章編『環境考古学マニュアル』」、日本歴史学会、7、105-106。

单著 (2009) 「都市型震災と村おこし型震災」、吉越昭久『歴史都市における人為的災害からの防

御による安全の構築』、104-110。

研究助成

- 1990年度 総合研究 (B)「地球環境の変動と文明の盛衰－新たなパラダイムを求めて」(研究代表者：伊東俊太郎国際日本文化研究センター教授)：研究分担者
- 1991年度～1994年度 重点領域研究「文明と環境」(研究代表者：安田喜憲国際日本文化研究センター教授)：研究分担者
- 1991年度～1993年度 重点領域研究「日本海沿岸地域における地形環境の変遷と文明の盛衰」(研究代表者：日下雅義徳島文理大学教授)：研究分担者
- 1991年度 重点領域研究「トルコ・シリアの環境変遷史と文明の盛衰」(研究代表者：安田喜憲国際日本文化研究センター教授)：研究分担者
- 1995年度～1997年度 国際学術研究「稲作文化の起源と発展に関する環境考古学的研究」(研究代表者：安田喜憲国際日本文化研究センター教授)：研究分担者
- 1996年度～1997年度 基盤研究 (C)「河川景観とイメージの形成に関する歴史地理学的研究」(研究代表者：吉越昭久立命館大学教授)：研究分担者
- 1997年度～1999年度 関西エネルギーリサイクル科学振興財団「環境考古学からみた災害と土地開発－京都盆地・大阪平野の場合－」：研究代表者
- 1997年度 高梨学術奨励基金「超高解像人工衛星をもちいた埋没遺跡の探査」：研究者代表者
- 1997年度～2001年度 文部省科学研究費 COE 基盤形成研究「長江文明の探求」(研究代表者：安田喜憲国際日本文化研究センター教授)：研究分担者
- 1999年度 大林都市研究振興財団「環境考古学からみた都市計画と災害－奈良盆地の場合－」：研究代表者
- 2002年度 COE 基盤形成研究「アトリサーチエンターテイメント京都」(研究代表者：長田豊臣立命館大学教授)：推進研究員
- 2001年度・2002年度 立命館大学先進的教育プログラム研究助成「バーチャルミュージアムと双方向通信システムを利用したフィールドワーク教育プログラムの開発」(研究代表者：藤巻正己立命館大学教授)：研究分担者
- 2002年度 立命館大学先進的教育プログラム研究助成「GIS と GPS を用いたフィールドワーク教育の開発」：研究代表者
- 2003年度～2007年度 基盤研究 (A)「自然科学分析による中世の環境変動の解明と農耕変遷の究明」(研究代表者：金原正明奈良教育大学助教授)：研究分担者
- 2006年度～2008年度 基盤研究 (A)「歴史都市における人為的災害からの防御による安全の構築」(研究代表者：吉越昭久立命館大学教授)：研究分担者
- 2006年度～2009年度 基盤研究 (A)「河姆渡文化研究の再構築 - 余姚田螺山遺跡の学際的総合調査 -」(研究代表者：中村愼一金沢大学教授)：研究分担者
- 2007年度 特定領域研究「自然科学分析による中世の環境変動の解明と農耕変遷の究明」(研究代表者：金原正明奈良教育大学准教授)：研究分担者
- 2013年度～2017年度 基盤研究 (A)「環境考古学を基軸とした人類学的「環太平洋文明学」の構築」(研究代表者：渡辺公三立命館大学教授)：研究分担者

- 2013年9月～2014年3月 立命館大学 R-GIRO 研究推進費「環境史からみた環太平洋地域の地震災害と津波被害」：研究代表者
- 2013年度 立命館大学研究推進プログラム（科研費獲得推進型）「環境史からみた開発と災害の研究」：研究代表者
- 2014年度 立命館大学研究推進プログラム（科研費連動型）「年縞環境史学の創成」：研究代表者
- 2015年度 立命館大学研究推進プログラム（科研費連動型）「環境史からみた開発と災害の研究」：研究代表者
- 2016年度 立命館大学研究推進プログラム（科研費連動型）「自然災害と文明の興亡・歴史の展開の研究環境史からみた開発と災害の研究」：研究代表者
- 2017年度 立命館大学研究推進プログラム（科研費連動型）「環境史からみた開発と災害の研究」：研究代表者
- 2018年度 立命館大学科研費推進プログラム（科研費連動型）「環境史からみた島嶼の災害リスクマネージメント」：研究代表者
- 2019年度 立命館大学科研費推進プログラム（科研費連動型）「環境史・土地開発史・災害史を踏まえた島嶼の災害リスクマネージメント」：研究代表者

社会的活動

- 改訂新庄町史編纂委員（1974～1984年）
- 吉井町史執筆委員（1985～1995年）
- 高松市弘福寺領山田郡田図比定地調査委員（1986～1990年）
- 奈良国立文化財研究所環境考古課程講師（1987年1月）
- 奈良国立文化財研究所弥生時代課程講師（1987年11月）
- 奈良国立文化財研究所環境考古課程講師（1987年12月）
- 奈良国立文化財研究所環境考古課程講師（1988年3月）
- 奈良国立文化財研究所環境考古課程講師（1988年10月）
- 太子町鶴庄総合調査委員（1998～2004年）
- 長船町史編纂委員（1989～2000年）
- 高松市歴史博物館展示委員（1989～1990年）
- 奈良国立文化財研究所水田遺跡調査課程講師（1990年11月）
- 安威川ダム建設に伴う総合文化財調査委員（1992～1997年）
- 国東町埋蔵文化財指導委員（1993～1999年）
- 豊後高田市埋蔵文化財指導委員（1994～1999年）
- 国際文化公園都市建設に伴う総合文化財調査委員（1997～1999年）
- 泉佐野市史調査委員（1997～2003年）
- 小矢部市桜町遺跡調査委員会調査委員（1998～2003年）
- 奈良国立文化財研究所水田遺跡調査課程講師（1999年7月）
- 高槻市環境評価委員（2001～2002年）
- 山梨県立博物館展示監修委員（2001～2006年）
- 山口県史執筆委員（2002～2012年）

Chile 環境省研究員（2013～2014年）

JICA Chile 研究員（2013～2014年）

田縣神社将来構想検討委員（2018年～2019年）

〔 以上の略歴、主要著書・論文等目録については、高橋学先生ご本人よりご提出いただいた原稿を、そのまま掲載させていただきました。 〕